

福山市津之郷町字高垣

ゆうくら  
夕倉遺跡報告会資料



空中写真（北から）

平成29年2月26日（日）

公益財団法人広島県教育事業団  
福山市教育委員会

## はじめに

公益財団法人広島県教育事業団事務局埋蔵文化財調査室では、都市計画道路山手赤坂線街路事業に伴って夕倉遺跡の発掘調査（調査面積1,100㎡）を平成28年11月21日から平成29年2月3日まで行いました。

## 位置と立地

遺跡は、福山市津之郷町字高垣に所在します。芦田川及び芦田川と合流する瀬戸川により形成された沖積地にあります。標高22.2mの丘陵の北側緩斜面との変換点にあたる平地に立地し、調査前は標高約7～8mの田畑でした。

## 周辺の遺跡

周辺の遺跡には本谷遺跡、ザブ遺跡、坂部遺跡、赤羽遺跡、湯伝遺跡など弥生時代から古墳時代の遺跡が確認されています。

## 調査の概要

調査の結果、段状遺構1基、土坑4基、溝状遺構7条、柱穴等を確認しました。

調査区は道を隔て東西に分かれ、西側の調査区では溝（SD8）を1条確認できました。東側の調査区では調査区の中央部から東側にかけて、遺構がまとまっています。土坑のうち、SK1・2は直径1.5～2mの円形で、底面までの深さはSK1が1m、SK2が2mです。SK4は円形の石組をした土坑で、深さは1.7m以上で、1.3mあたりから礫が出土しました。これらの礫は深くなるにつれ大きくなっていることから使用後に上部の礫を投げ込んだものと思われます。これらの土坑は規模・形態等からいずれも井戸と考えられます。溝状遺構のSD4、SD6、SD7は形状や規模から段状遺構の一部と思われますが、溝で区画された平坦部からは柱穴等は確認できませんでした。このほかに、調査区の南西側に東西方向に延びるSD1があります。上面の幅が一定せず、また底面も凸凹していることや深さと断面の形状もさまざまであったことから自然流路と考えられます。

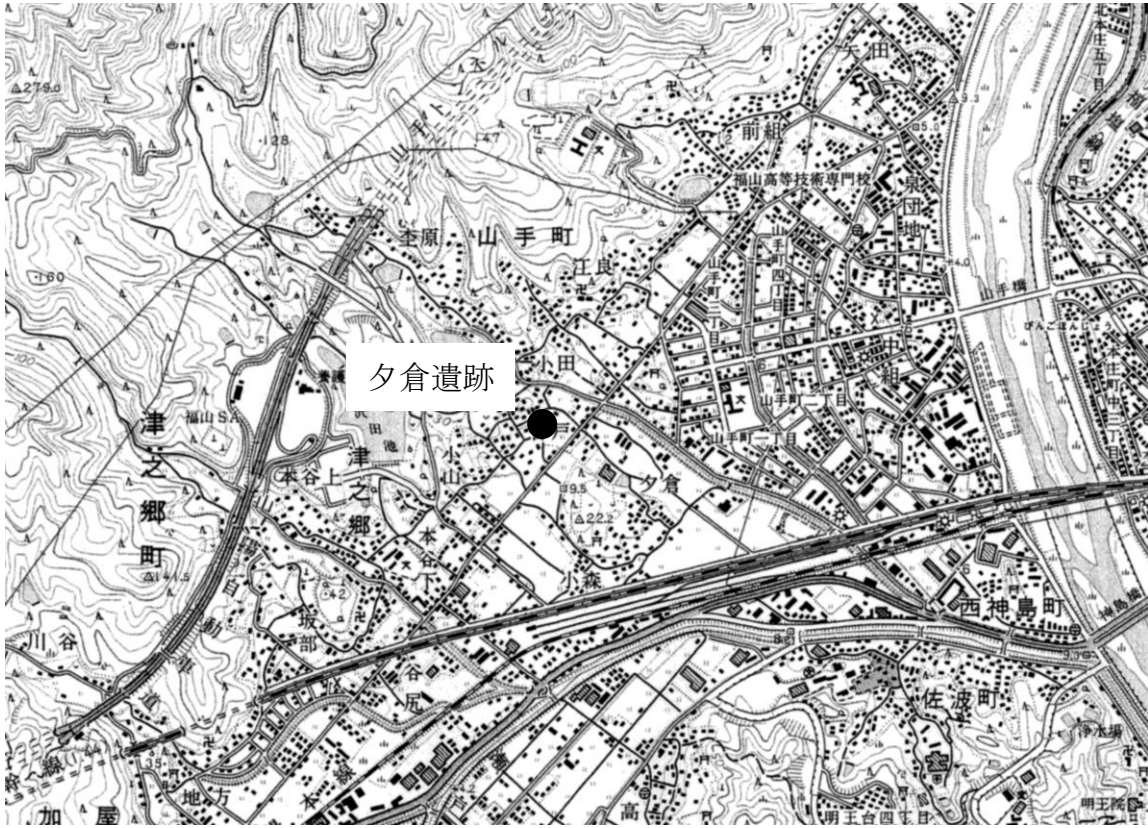
遺物は、遺構内や埋土などからさまざまな土器（弥生土器・土師器・須恵器・土師質土器など）が出土しています。

## まとめ

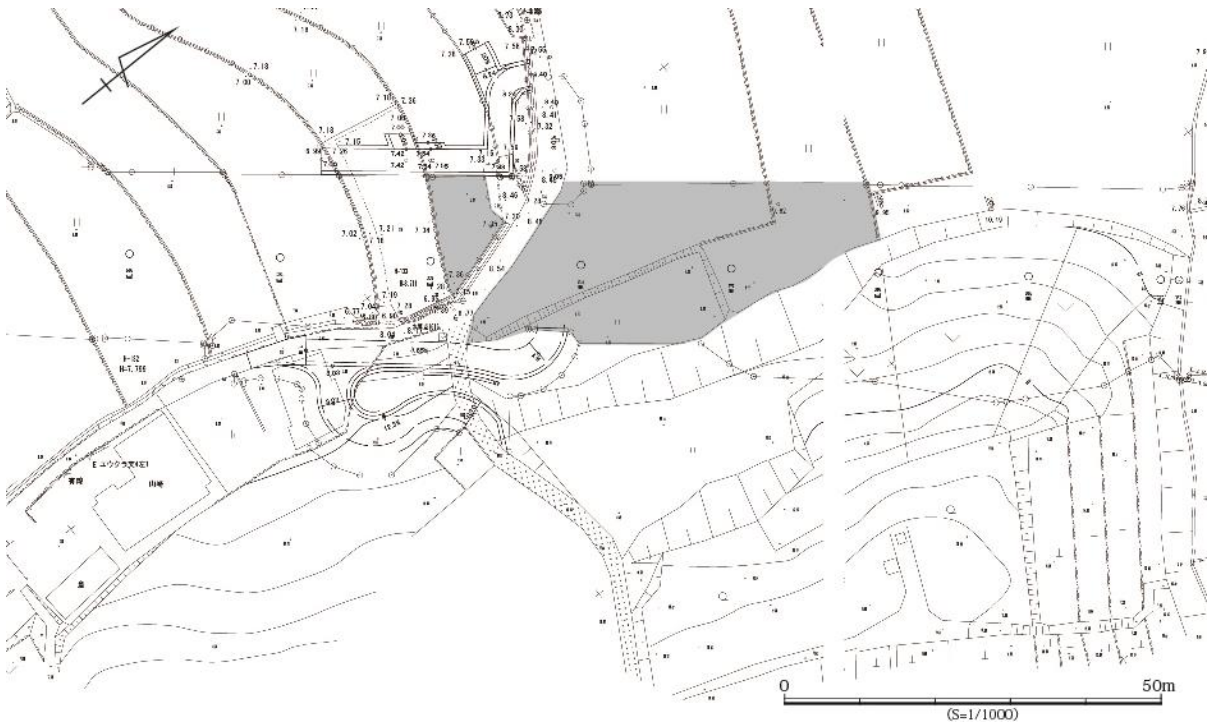
今回の調査では、土師質土器など中世の土器が多く出土しており、草戸千軒町遺跡と同じ時代の集落跡と考えられます。

調査地点は独立丘陵の西側にあたる場所から、中世集落の東側の境界付近にあつていたと思われます。

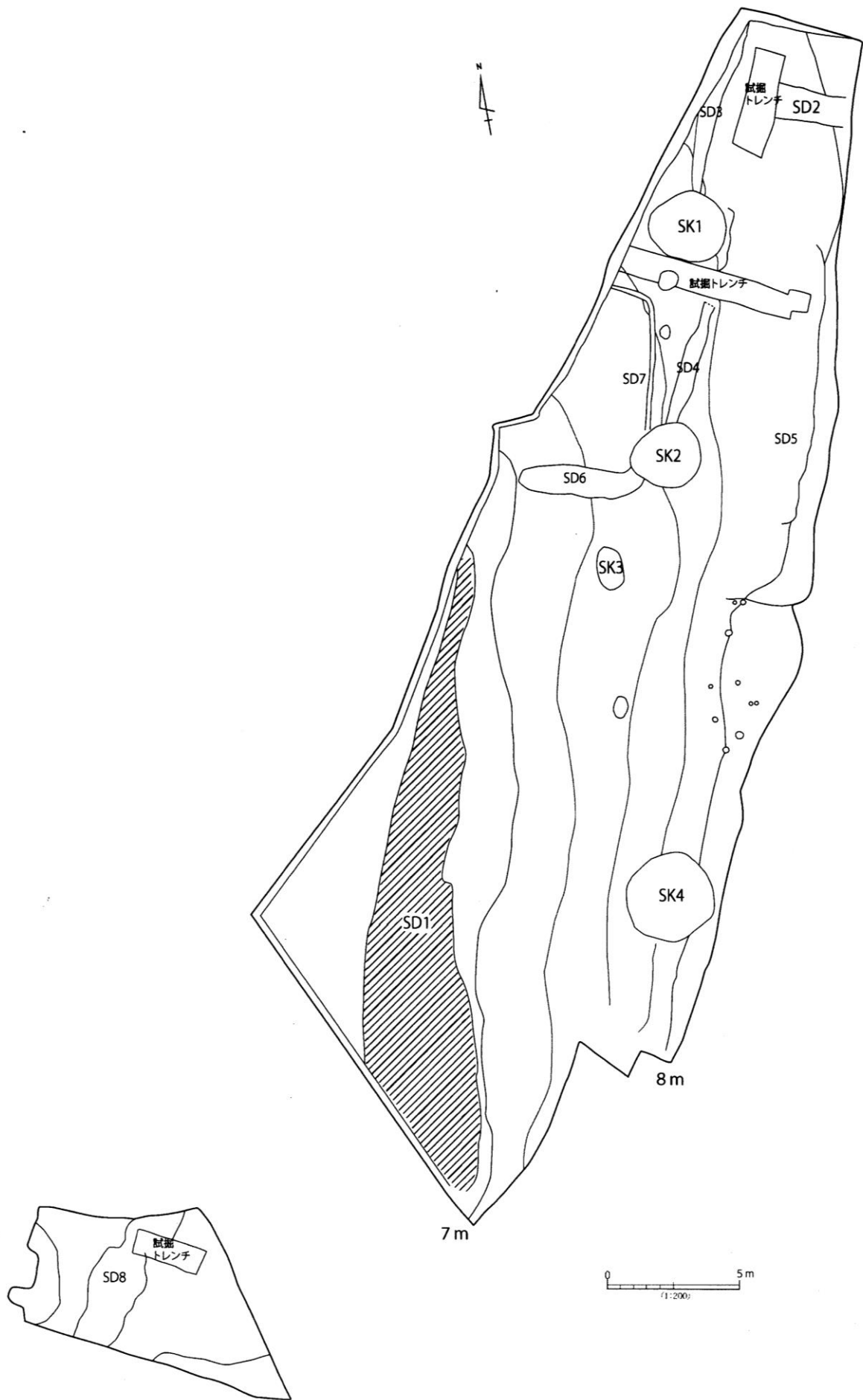




第1図 遺跡位置図 (1 : 25000)



第2図 調査区位置図 (1 : 1000)



第3図 遺構配置図 (1 : 200)





SK 4（井戸）の石組みの様子（西から）

出土した遺物



土師質土器 碗



土師質土器 皿



須恵器 提瓶



土師器 甕